

Canon

SPEEDLITE
220EX



J

使用説明書

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

キヤノンスピードライト220EXは、E-TTL II/E-TTL/TTL自動調光システムに自動対応する小型ストロボです。

- **カメラの使用説明書もあわせてお読みください。**
ご使用になる前に、この使用説明書とカメラの使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。
- **基本操作は通常のAE撮影同様、簡単です。**
220EXをEOSカメラに装着したとき、ストロボ撮影の自動露出制御のほぼすべては、装着したカメラによって行われます。
この仕組みは、ストロボ内蔵式カメラの場合なら、どなたでもご理解いただけると思いますが、220EX装着時も「内蔵ストロボの代わりに小型ストロボが外付けされたもの」とお考えください。
- **各カメラの調光方式（E-TTL II/E-TTL/TTL）に自動対応します。**
装着したカメラのストロボ制御方式に従い、次の調光方式で自動制御されます。
 - ① E-TTL II 自動調光（プリ発光記憶式評価調光/レンズの距離情報活用を含む）
 - ② E-TTL自動調光（プリ発光記憶式評価調光）
 - ③ TTL自動調光（フィルム面反射測光のリアルタイム調光）

各カメラに装着したときの調光方式につきましては、カメラの使用説明書を参照してください。主な仕様『外部ストロボ』の項目に明記されています。

なお、カメラの使用説明書のストロボ撮影の章では、便宜上、上記の①②を**Aタイプカメラ**（注：E-TTL IIあるいはE-TTL対応カメラ）、③を**Bタイプカメラ**（注：TTL対応/E-TTL II、E-TTL未対応カメラ）と表記しています。

- * **本書では、Aタイプカメラとの組み合わせを前提に説明しています。**
Bタイプカメラとの組み合わせにつきましては、4ページを参照してください。

目次

本使用説明書上のおことわり	4
各部の名称.....	5
電池を入れる	6
カメラに取り付ける	7
電源を入れる	8
全自動ストロボ撮影	9
撮影モード別自動調光撮影.....	10
FEL FEロック	11
⚡ ハイスピードシンクロ	11
故障かな？とお考えになる前に	12
主な仕様.....	13

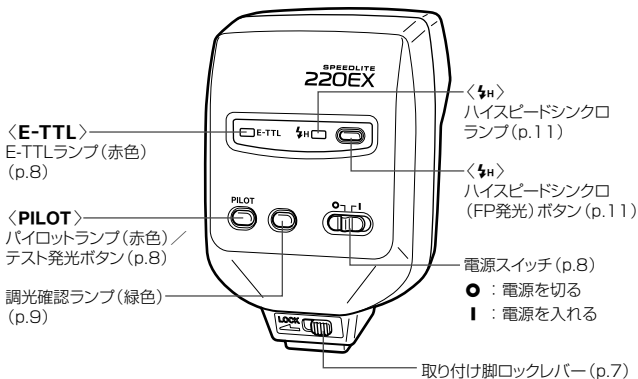
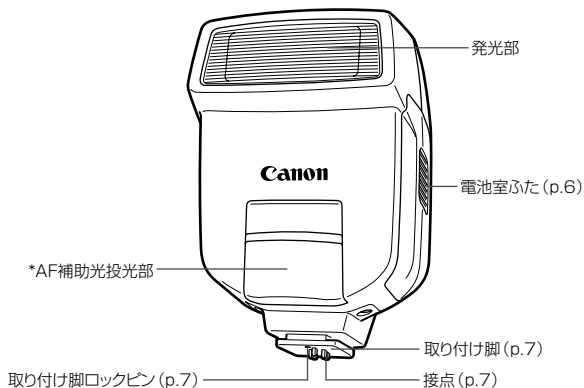
本使用説明書上のおことわり

- 本書では、カメラとストロボの電源スイッチが入っていることを前提に操作方法を説明しています。
- 本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ストロボやカメラ本体に表示されている絵文字を使用しています。
- (8) / (16) マークはボタンから指を離しても、その状態がタイマーの働きにより8秒間 / 16秒間保持されることを示しています。
- 撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、別紙の『安全上の注意』をお読みください。
- (p.**) の**部は参照ページを示しています。
- 本文中の以下のマークのついた欄は、それぞれ次のような内容になっています。
 - 🔊：撮影に不都合が生じるおそれのある注意事項が書かれています。
 - 📄：基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。

🔊 Bタイプカメラとの組み合わせについて

Bタイプカメラでは、TTL自動調光でのストロボ撮影となります。FEロック、ハイスピードシンクロ (FP発光) は使用できません。なお、220EX使用時に〈E-TTL〉ランプ (右ページ参照) が点灯しないカメラがBタイプカメラです。

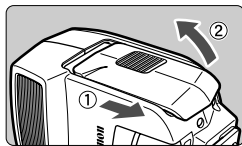
各部の名称



* 220EXのAF補助光は、EOSカメラの中央AFフレームにのみ対応しています。
有効距離は約0.7～5mです。

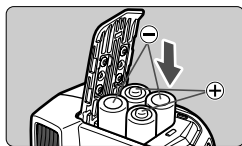
電池を入れる

単3形電池を4本使用します。



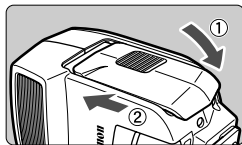
1 ふたを開ける

- 電池室ふたを矢印の方向にスライドさせたあと、ふたの端を持ち上げます。



2 電池を入れる

- 表示にしたがって、「+」「-」をまちがえないように電池を入れます。



3 ふたを閉じる

- ふたを戻し、押えながらスライドさせます。

発光間隔と発光回数

電源の種類	発光間隔	発光回数
単3形アルカリ乾電池	約0.1~4.5秒	約250~1700回

- 新品電池使用、当社試験基準によります。

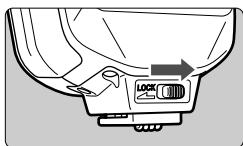


- ストロボ発光部の発熱と劣化を防ぐため、連続発光は20回までとしてください。また、20回連続発光したときは、10分以上休止してください。
- 電池は4本とも新品で同一銘柄の電池を使用してください。電池の交換は4本同時に行ってください。

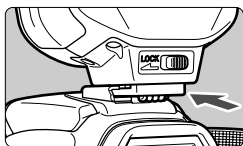


- アルカリ乾電池以外の単3形電池は、接点形状が規格で統一されていないため、電池の種類によっては、接触不良を起こす場合があります。
- 単3形のニッケル水素電池、リチウム電池も使用できます。

カメラに取り付ける

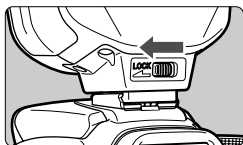


1 レバーを右にスライドさせる



2 取り付ける

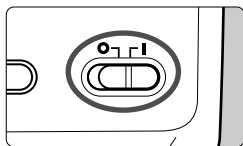
- ストロボの取り付け脚がアクセサリースューの奥に突き当たるまで差し込みます。



3 固定する

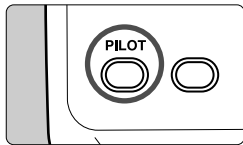
- 取り付け脚ロックレバーを左方向へスライドさせると、ロックピンが出て固定されます。
- 取り外すときは、取り付け脚ロックレバーを右方向にスライドさせて、カメラから外します。

電源を入れる



1 電源を入れる

- 電源スイッチを〈I〉にすると、充電を開始します
- 〈E-TTL〉ランプが点灯します。




2 充電を確認する

- 〈PILOT〉ランプが点灯すると、充電完了です。
- テスト発光ボタン（兼パイロットランプ）を押すと、テスト発光します。

オートパワーオフ機能について

電池消費を防ぐため、90秒間何も操作しないと、自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れるには、カメラのシャッターボタンを半押しします。

 テスト発光は、カメラのφ4、φ6タイマーが働いているときはできません。

全自動ストロボ撮影

カメラの撮影モードを〈**Q**〉（全自動）、または〈**P**〉（プログラムAE）にすると、〈**Q**〉、〈**P**〉でのAE撮影と同じ操作で、「カメラまかせのE-TTL II/E-TTL全自動ストロボ撮影」を行うことができます。

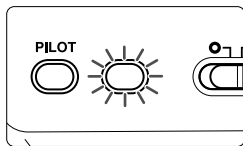
🔋 60 5.6


1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ➔ ファインダー内にシャッター速度と絞り数値が表示されます。
- ファインダー内の〈🔦〉点灯を確認します。

2 撮影する

- ➔ シャッターが切れる直前にプリ発光し、続いてメイン発光します。
- ➔ 標準露出で撮影が行われたときは、調光確認ランプが約2秒間点灯します。



 調光確認ランプが点灯しなかったときは、被写体に近づいて再度撮影します。デジタルカメラでは、ISO感度を上げる方法もあります。

撮影モード別自動調光撮影

カメラの撮影モードを〈Tv〉(シャッター優先AE)、〈Av〉(絞り優先AE)、〈M〉(マニュアル露出)、に設定するだけで、それぞれの撮影モードに応じたE-TTL II/E-TTL 自動調光撮影を行うことができます。

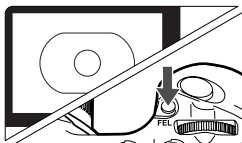
Tv	<p>任意のシャッター速度を設定したいときに選択します。 設定したシャッター速度 (30~1/X秒*) に対し、カメラの測光で標準露出となる絞り数値が自動設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none">● 絞り数値が点滅するときは、背景が露出アンダー、またはオーバーになります。絞り数値が点灯するよう設定を変更してください。
Av	<p>任意の絞り数値を設定したいときに選択します。 設定した絞り数値に対し、カメラの測光で標準露出となるシャッター速度 (30~1/X秒*) が自動設定されます。</p> <p>夜景などを背景にした暗い場所では、主被写体も背景も標準露出となる、スローシンクロ撮影になります。主被写体はストロボ光で、背景は低速シャッターによる長秒時露光で標準露出となります。</p> <ul style="list-style-type: none">● 暗い場所では、シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用し撮影することをおすすめします。● シャッター速度が点滅するときは、背景が露出オーバー、またはアンダーになります。シャッター速度が点灯するよう設定を変更してください。
M	<p>シャッター速度も絞り数値も任意に設定したいときに選択します。 主被写体は、ストロボ光で標準露出となります。背景の露出は、設定したシャッター速度 (buLb、30~1/X秒*) と絞り数値によって変わります。</p>

* 1/X 秒は、各カメラのストロボ同調最高シャッター速度です。

● 〈DEP〉、〈A-DEP〉で撮影すると、〈P〉(プログラムAE) と同じ撮影結果になります。

FEL FE ロック

FE (Flash Exposure) ロックは、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。被写体にピントをあわせたあと、カメラの〈FEL〉ボタンを押して行います。



〈FEL〉ボタンを押す (Ⓜ16)

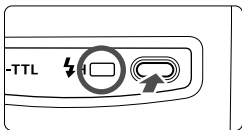
- 被写体をファインダー中央において〈FEL〉ボタンを押します。
- ➔ ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露光量を記憶します。



- ファインダー内にFEL表示が0.5秒間表示されます。
- 〈FEL〉ボタンを押すたびにプリ発光し、更新されます。
- 〈FEL〉ボタンのないカメラは〈*〉ボタンを押します。
- 被写体までの距離が遠すぎて露出不足になるときはファインダー内の〈⚡〉が点滅します。被写体に近づいて再度FEロックを行います。
- ファインダー視野に対して被写体が小さいと、FEロックの効果が得られない場合があります。

⚡H ハイスピードシンクロ

ハイスピードシンクロ (FP発光) を使用すると、すべてのシャッター速度でストロボ撮影を行うことができます。特に日中シンクロによるポートレート撮影を、絞り優先で行いたいときに有効です。



〈⚡H〉ボタンを押して、〈⚡H〉ランプを点灯させる

- ファインダー内で〈⚡H〉の点灯を確認します。



- 調光確認ランプが点灯しなかったときは、被写体に近づいて再度撮影します。デジタルカメラでは、ISO感度を上げる方法もあります。
- シャッター速度をストロボ同調最高シャッタースピード以下に設定した場合は、ファインダーに〈⚡H〉は表示されません。
- ハイスピードシンクロ撮影では、シャッター速度が高速になるほどストロボ光の到達距離が短くなります。

故障かな？とお考えになる前に

●ストロボが発光しない

- ・ 電池が逆向きに入っている。
→ 電池を正しい向きに入れなおす。(p.6)
- ・ 電池が消耗している。
→ 30秒たってもパイロットランプが点灯しないときは、電池を交換する。(p.6)
- ・ ストロボがカメラにしっかり取り付いていない。
→ ストロボの取り付け脚をカメラにしっかりと取り付けなおす。(p.7)
- ・ ストロボとカメラの接点部分が汚れている。
→ 接点部分を清掃する。(p.7)

●電源が勝手に切れる

- ・ 何もしないで90秒たったため、オートパワーオフ機能が働いた。
→ シャッターボタンを半押しするか、テスト発光ボタンを押す。(p.8)

●写真の下側が暗い

- ・ 撮影距離が近すぎる。
→ 0.7m以上離れて撮影する。

●ストロボの露出がアンダー、またはオーバーになる

- ・ 画面内に窓ガラスなど、反射率の高いものがあった。
→ FEロック撮影を行う。(p.11)
- ・ ハイスピードシンクロで撮影した。
→ ハイスピードシンクロは、連動距離が短くなるため、ガイドナンバーに注意して、シャッター速度を設定する。(p.11)

●写真が大きくブレている

- ・ 撮影モードを〈Av〉にして、暗い場所で撮影した。
→ 三脚を使用するか、撮影モードを〈P〉にして撮影する。(p.10)

主な仕様

■形式

形式	クリップオンタイプE-TTL II/E-TTL/TTL自動調光ストロボ
使用カメラ	EOS・Aタイプカメラ (E-TTL II/E-TTL自動調光) EOS・Bタイプカメラ (TTL自動調光)
ガイドナンバー	22 (ISO100・m)
最大対応画角	EF28mmレンズ
閃光時間	1.4ms以下

■露出制御

露出制御方式	E-TTL II/E-TTL/TTL自動調光
調光連動範囲	通常発光：約0.7～15.7m (EF50mm F1.4 ハイスピードシンクロ：約0.7～7.6m (1/250秒時) レンズ使用時・ISO100)
FEロック	FEロックボタンによる
ハイスピードシンクロ	可能
調光確認	調光確認ランプ点灯

■ストロボ充電

充電時間/充電表示	約0.1～4.5秒/パイロットランプ点灯
-----------	----------------------

■AF補助光

対応AF	中央1点のみ
有効距離	約0.7～5m

■電源

電源	単3形アルカリ乾電池4本
発光可能回数	約250～1700回
節電機能	90秒放置で電源切

■大きさ 65 (幅) × 92 (高さ) × 61.3 (奥行) mm

■質量 約160g (電池別)

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。



Ni-MH

使用後はリサイクルへ

ニッケル水素電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。
リサイクルについては、ご購入販売店にお問い合わせください。

MEMO

Canon

キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

お客様相談窓口

製品の取り扱い方法、修理サービスのご相談は、機種名をご確認のうえ、お買い上げの販売店または、別紙のカメラサービス窓口にご相談ください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後5年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本のフィルムやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンカメラのホームページを開設しています。カメラに関する情報を掲載しているコンテンツなどもございますので、インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

キヤノン株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社
canon.jp/camera

この使用説明書は、2006年2月に作成したものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。